

No. 33

33

北海道建築士会 女性委員会

「女性建築士の集い」

子どもをはぐくむ住まいづくりセミナー開催について
釧路支部 金子ゆかり

2006年6月25日、空は晴れて北海道の爽やかな夏を感じさせる日に、「女性建築士の集い」として、また、はじめての試みとして、会員外の方も参加できる企画として「子どもをはぐくむ住まいづくりセミナー」は行われました。

今回の集いは内容が盛りだくさんで、セミナーと平行し、「お遊びコーナー」が設けられ、親子で参加しても楽しめる企画となっていました。開始時間の10時には大西直子さんによるお琴の演奏がはじまり、しっとりとした雰囲気の中、セミナーが始まりました。

「遊びの世界から見た家づくり」とのタイトルで工藤美智子氏による講演が行なわれました。子育てを通して、年齢によって変わってゆく子ども達の遊び方の中から、家づくりに必要なものは何なのかをご講演いただきました。



ワークショップ風景

ワークショップでは、旭川支部の会員がテーブルマスターをつとめ、自分の子ども時代の経験から理想の家とは何かを模索し、また、それを通して、現代の家族の問題を「すまい」を通して解決する事は出来ないだろうかとの議論なども行われました。午後からの講演では、山元規子氏が「家族の役割と住まいづくり」と題して、わかりやすく説明し、家族が役割をとおして、自分の居場所を確保してゆくことの大切さなどの話をしました。質問交流タイムでは、一般参加の方から、建築材料などについての質問があがり、セミナーは盛会のうちに幕を閉じました。参加人数は大人35名(うち会員23名)、子ども11名。今回は男性の参加が7名と、子どもと住環境に対する男性の関心の高さもうかがえました。



「遊びの世界から見た家づくり」講演風景

北海道建築士会のホームページ「女性委員会」に、ここに掲載できなかった記事も載せていますので、ぜひ 見てくださいね！

<http://www.h-ab.net/>

全国女性建築士連絡協議会、分科会報告

札幌支部 山本明恵

今年度の分科会「住まいの安全」「環境共生」「健康住宅」「建築士制度と土会活動」「歴史的建造物の保存と開発」「子供・住環境」「高齢社会」「集まって住む」の中で、私は「集まって住む」を担当しました。これまでにさまざまな暮らし方を取り上げ、少子高齢化やライフスタイルの変化に応じた新たな暮らしを選択する方向性を探ってきました。今回は「集合住宅は終の住み家になるのか」をテーマとし、昨年東京土会女性委員会が開催した公開シンポジウム「集合住宅の再生 - ひと・記憶・環境の魅力を探る - 」の報告を基に「集合住宅」の再生、コミュニティの継続、保存、環境の配慮などの事例から、建物自体の老朽化に対する再生の手法と新たなコミュニティづくりを考えました。（良質なものは見捨てられず、細やかに管理すれば長期に渡り現役として使用される）が印象に残りました。意見交換では多くの参加者から高齢化、まちの活性化など、住民の変化、地域の現状を通してのコミュニティづくりの必要性と、その取り組み事例や実践活動が報告されました。「集まって住む」ための方策としては、地域を生かすこと、人づくりと関わること、自然体でできること、世代が混ざり合うこと、集住の形態はさまざまあって当然、つくる側とつくられる側の境をなくす共同意識が大切であることなどが話し合われました。私たち建築士として、建物だけでなく、人の思いや時の流れが創りあげた環境も継続できる住民側の諸状況に対しての関わりと、役割を45名の参加者と共に考えた分科会でした。



「集まって住む」の分科会風景

全国女性建築士連絡協議会に参加して

女性委員会副委員長 本間 恵美

7月21日、22日と、まだ梅雨の明けない蒸し暑い東京で、全国女性建築士連絡協議会に参加して来ました。北海道からは8名が参加しました。21日は、全大会で活動報告を行いました。高木さんのパワーポイントの補佐の中、20分という短い時間でしたが、女性委員会が平成11年から行ってきた「子ども・家・Hokkaido」の活動と、1月に発行した冊子「子どもをはぐくむ住いづくり」についての説明。最後に、冊子を使用した活動として、6月25日に女性委員会主催で行った「子どもをはぐくむ住いづくりセミナー」の報告をしました。今回の活動報告では、北海道の他、福島県、千葉県、神奈川県各建築士会が発表を行いました。全てが子どもを対象とした活動だったことから、子どもの住教育への関心の高さが伺えました。22日は、工藤さんと2人でF分科会「子供・住環境」に参加しました。こちらでも60名以上が参加する人気の高さです。ここでは、前日の短い活動報告では伝えきれなかった冊子の内容などについて、補足して説明をすることができました。全国から集まった女性建築士達が、自分たちの活動について報告したり、他県の活動について具体的な質問をしたりと、活気ある分科会でした。また、今回の協議会では、私たちの冊子に多くの方が興味を示して下さり、60冊近くが私たちの元を離れていきました。2日間を通して、他県土会の、活動への情熱やパワーを肌で感じ、他団体や行政との交流の利点や難点を知り、セミナーやワークショップでの人集めの苦労に共感したりと、有意義な時間を過ごしました。



冊子販売風景